

# 江津市有機農業実施計画

## I 市区町村

江津市

## II 計画対象期間

令和5年度から令和9年度

## III 策定の趣旨

江津市有機農業実施計画（以下、「実施計画」という。）は、江津市において有機農産物の生産を拡大し、目標を達成するための生産、加工、流通及び消費の取組、実施体制等についてまとめたものである。実施計画の実行においては、生産だけでなく、加工、流通、消費など多岐にわたることから、生産者の取組だけでは解決しえない課題が想定される。とりわけ、消費に関しては、消費者の志向や行動が大きく影響するため、消費者との関わりが重要となる。単に有機農産物の販売促進を行うだけでなく、有機農業についての理解やSDGsなど持続可能性についての意識を高め、積極的に有機農産物を選択してもらえる動機づけが必要となる。そのため、江津市が目指すオーガニックビレッジ構想をまとめ、市民等に対し広く周知を図るものとする。

#### IV 江津市における有機農業の現状と目標、課題及び具体的な取り組み

##### 1. 学校給食への有機農産物の活用促進

###### (現状と目標)

江津市の学校給食における地場産食材の供給の現状は、米については100%、野菜類については35%程度である。その内、有機農産物は約7.4%（重量ベースでは約2.1t）となっている。今後の目標としては、学校給食の食材における有機農産物の割合を高めていくことに取り組む。

###### <課題及び具体的な取り組み>

学校給食用米を全量有機米にするためには、約7ha（反収300kgで計算）の取り組みが必要である。また、学校給食での使用量が多い農産物（じゃがいも、人参、玉ねぎ、キャベツ、きゅうり）の有機栽培生産量が僅少である。まずは、学校給食センターと連携しながら、地産地消の取り組みが進んでいる本市の給食の現状等を広く市民に周知していく。現在100%が地元産である米について、有機米（無肥料栽培米も含む）の導入の拡大を図りながら、順次、畑作物における有機農産物の導入を拡大する。さらに、県内外の先進事例調査等や地域の食材を活用した給食メニューの考案、オーガニック給食の全国的な推進組織との連携に取り組む。

## 2. 生産団地の育成と生産拡大

### (現状と目標)

江津市では、現在、桜江地区(有機 JAS 認証 3 経営体、エコファーマー 11 名)及び山ノ内地区(有機 JAS 認証 1 経営体)に一定のまとまりがあり、今後の団地化の中心的地区と考えられる。有機 JAS 認証取得面積 57ha、特別栽培米生産面積 42.8ha のうち、有機米の有機 JAS 認証面積の拡大を目指すとともに、江津市の有機農業の拠点となる生産団地の育成にも取り組む。

### <課題及び具体的な取り組み>

有機米の栽培技術が蓄積されていないため、慣行農法から有機農法への転換が進みにくい。慣行農法から有機農法への転換を推進するとともに、既存の有機農家の栽培面積及び生産量の維持・拡大を図る。生産団地内に各種実証ほの設置を行い、県(農業技術センター・普及部等)や JA と連携した栽培技術研修等を実施する。

### 3. 新規就農者の育成・確保

#### (現状と目標)

就農相談会や定住相談会に参画し新規就農者の確保育成に努めている。相談者のうち約7～8割の方が、有機農業に興味を示しているという結果からも、有機栽培の新規就農者の育成・確保を一層推進していく必要がある。

また、有機農業の生産面積の拡大はもとより、生産品目数の拡大や江津市の特産品目を増やしていくことにも取り組む。

#### <課題及び具体的な取り組み>

新規就農者の有機農業へ参入しやすい環境整備を進めることが重要である。農業体験プログラムや産業体験終了後、自営就農に安心して取り組めるように、農機具のリユースやハウスのリース方式や農業研修の場の整備など各種支援策の検討を進める。

#### 4. 販路の確保・拡大

##### (現状と目標)

江津市における有機 JAS 認証取得状況は、桑 14 ha、大豆 6.7 ha、水稻 5 ha、もち麦 3 ha、えごま 2.5 ha、大麦若葉 2 ha、葉物野菜 1.4 ha、ごぼう 0.4 ha など、総面積は約 57 ha であり、その販売先は地域内をはじめ近隣県や加工品等は県外へも取り引きされている。品目の特性に応じた販路の確保とその拡大が必要不可欠である。

##### <課題及び具体的な取り組み>

地域内流通において、有機農産物を取り扱う事業者が少ない現状がある。売り方の工夫や学校給食への供給拡大はもとより、有機農産物の取り扱いに関する実需者アンケートを実施し現状把握を行う。産直においては、店舗販売や有機ほ場における直売方式、デジタルシステムと連動した量り売り方式、セット野菜の通信販売体制の整備を検討する。市内飲食店と連携した食イベントを継続しながら、有機農産物の生産状況の見える化にも取り組む。

## 5. 江津市産有機農産物等のブランド化の推進

### (現状と目標)

桑・大麦若葉・唐辛子・にんにく・生姜などを活用し健康食品素材の6次産業化に取り組まれている。さらに、有機農産物の加工品開発などによる高付加価値化と江津独自のブランドづくりに向けた取り組みを推進したい。

### <課題及び具体的な取り組み>

専門家のサポートも受けながら加工品開発ができる連携体制が不足している。研修会の開催やマーケットの視察など積極的に実施したい。また、市内の事業者との連携により、有機メニューの開発や冷凍有機野菜の商品化に向け取り組み、江津独自のロゴマーク・パッケージデザイン・チラシ等、ブランディングに資する検討も行う。商品化したものは「ふるさと納税」返礼品として活用する。

## 6. 仲間づくり・移住(定住)等の推進

### (現状と目標)

有機農業実践講座の開催や市民団体主催による各種イベントが実施されており、有機農業をベースにしたコミュニティの醸成を図っている。今後も、仲間づくりにつながる取り組みを積極的に推進するとともに、その活動が移住（定住）にもつながるような取り組みにしたい。

### <課題及び具体的な取り組み>

有機農業を基本にした市民農園の整備や有機農業実践講座の充実や各種イベントのさらなる活性化や空き家や農地の情報発信を図るための拠点づくりが必要。マンパワーも必要であり地域おこし協力隊等の活用も検討する。LFC コンポストの理解促進・普及のためのセミナーやイベントを開催し、循環をテーマとした江津らしいオーガニックな暮らしを市内外に広く情報発信していく。

## 7. ふるさと愛の醸成・情操教育・食育活動等の推進

### (現状と目標)

小学校5校・中学校3校で農家との交流事業を展開しているが、自然に身を置き、土に触れ、人と交流することは子供たちの豊かな感性を育てることに大いに寄与する取り組みであり、高等学校や幼稚園、保育所も含む関係機関(者)が連携して交流事業の拡充を図るとともに、学童農園の設置を推進し、ふるさと愛の醸成・情操教育・食育活動を活発化したい。

### <課題及び具体的な取り組み>

食農教育の重要性は認識しながらも具体的な取り組みにつなげていない。生産から収穫、加工、残渣の循環までの取り組みをパッケージ化し、コミュニティスクール化に取り組む学校と連携しモデル校として実証を行う。自分たちの理想の給食を作ることを目的に、大学生や高校生とも連携しメニュー開発を行う。幅広い年代に食農教育の重要性を周知するため、出前講座等を活用する。



## 8. 情報発信

### (現状と目標)

江津市における有機農業の推進に係る情報発信については、パンフレットや野菜のPR用のシールの無償配布を実施している。今後は、江津市民はもとより幅広く江津市の情報発信を行うため、各種情報発信媒体の活用に取り組みたい。

### <課題及び具体的な取り組み>

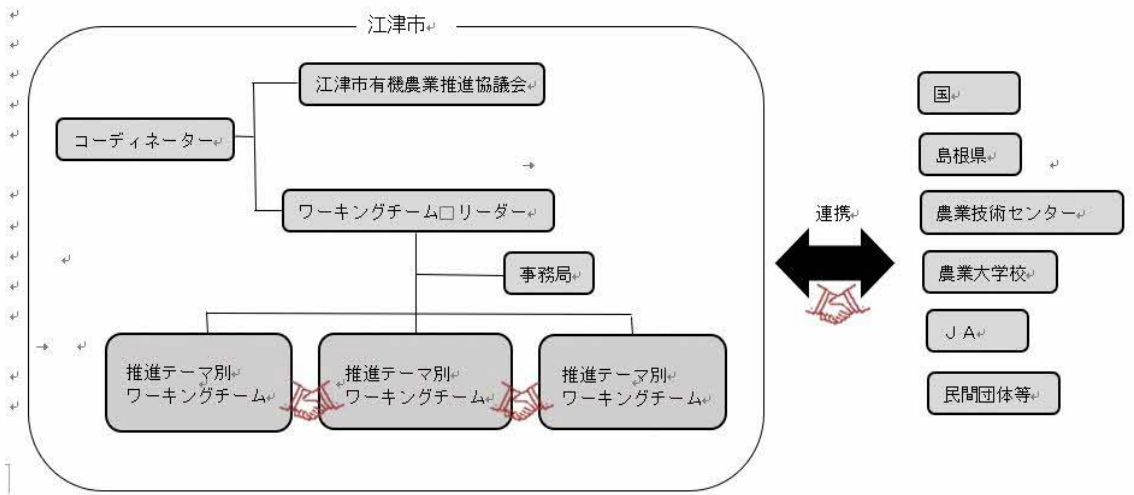
本市では、新聞折込やチラシ・パンフレットから情報を入手している方が多い。幅広い年代に本市の取り組みやオーガニックに関わっていただくために SNS での情報発信に取り組む。オーガニックビレッジ構想について集約した WEB ページの制作、本市のオーガニックに携わる人の取り組みや想いを WEB で発信していく。

## V 取組の推進体制

事業の推進体制として、江津市有機農業推進協議会を核とした推進テーマ別ワーキングチームと全体のコーディネーターを設置する。ワーキングチームにはリーダーを配置し、各チーム5名程度とし必要に応じて招集する。

江津市有機農業推進協議会の総会を年1回、ワーキングチーム全体会を年3回、各ワーキングチームでの個別会を年3～5回実施する。

### IV 推進体制



# VI 年度計画（資金も含めて）

## 有機推進計画の活動と具体的な取り組み（令和5年度～令和9年度）

